

# ウズラ 英: Japanese Quail 学: *Coturnix japonica*

## 1. 分類と形態

分類: キジ目 キジ科

「日本鳥類目録」第5版までは、*C. coturnix*として、ヨーロッパウズラやケープウズラなどと同一種とされていた。同一種とした場合はキジ科の中で渡りの性質をもつ唯一の種である(東京動物園協会 1987)。

全長: 17-19cm 翼長: 97-108mm  
 嘴峰長: 11-14mm 尾長: 33-43mm  
 ふら蹠長: ♂31-34mm ♀32-35mm 体重: ♂84-114g ♀90-115g

※全長はMadge & McGowan(2002), それ以外の計測値は河原(1978)による。

### 羽色:

背面は黒赤褐色に黒斑, 赤さび色斑が微細な模様をなし, 明瞭なわら色の軸斑がある。わら色の頭中央線と後頸までの同色の眉斑があり, 虹彩は褐色, 嘴は灰黒色, 脚は淡赤肉色。オスの顔から喉は赤褐色で繁殖期にはとくに濃くなる。胸から脇は黄褐色に白縦斑, 腹は淡褐色から白色。メスは喉はバフ色で, 胸から脇にかけて黒斑がある。



写真1. ウズラのメス。  
[Photo by 渡辺美郎]



写真2. ウズラのオス(左)とメス(右)の比較。

### 鳴き声:

繁殖期のオスはジュジュビー, グワググルルーと聞こえる大きな声で, とくに日出前と日没前後に盛んに鳴く。江戸時代などには鳴き合わせも盛んで, 当時は「御吉兆」と鳴く個体が特に珍重されたという。近年の聞きなしとしては「アジャパー」などがある。

驚いて飛び立つときにはチュルルー, チュルルーと鳴く。メスはあまり鳴かないが, 他個体を呼ぶ際などにピピッ, ピピッという声を出す。

## 2. 分布と生息環境

### 分布:

シベリア南部, サハリン, 中国東北部, モンゴル東部, 朝鮮半島, 日本で繁殖し, 冬季には南中国, インドシナ半島などに渡る。日本では, 北海道と本州中部以北の高原などで繁殖し, 冬季には本州中部以南の積雪のない地方の草原, 田畑に渡来する。北海道・青森で繁殖したものは関東, 東海, 紀伊, 四国で越冬するものが多く, 九州のものは主として朝鮮から冬鳥として渡来するが, 四国, 山陽, 東海方面にも移動する。(内田・清棲 1942など)

### 生息環境:

夏季は草地, 牧場, 低木の散在する草原, 海岸の草原など, 冬季は平地の草原, 稲田, 河原の草原, ヨシ原などに生息する。60~90cmくらいの草丈の場所を好み, 150~180cm以上の場所には生息しない。秋の渡来期には刈り

残しの稲田に多く, 稲が刈り取られると付近の荒田, 雑草の多い桑畑や河原の草原などに移動する。(清棲 1965など)

## 3. 生活史

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
越冬期						繁殖期			渡り		

### 生活史:

春は4月下旬から5月ごろ, 秋は11月中旬から下旬ごろが渡りの最盛期である。産卵期は5月下旬から9月上旬ごろ。繁殖期にはつがいで行動するが, 秋冬には5~10羽から30~50羽位の群を形成することもある。低地と高地の間の短距離移動も含めると年間6回の移動期があるともいわれ, 昭和初期の満州では春から秋までに2回繁殖していたと記録されている(吉村 1940)。樹枝などに止まることはなく, 北海道江別市の放棄牧草地の例では, 夏季のオスの行動圏は約1haと狭く, その範囲内での移動も歩行のみであった。近年の北海道では, 麦畑, 牧草地での観察例が多いが, 刈り取り時には移動してしまうことなどから, 繁殖の成否までは確認できていない(奥山 2005)。



写真3. ウズラのヒナ。  
[Photo by 植田睦之]



写真4. 北海道でウズラが生息していた環境。麦畑(上)と牧草地(下)。

### 繁殖システム:

一夫一妻。抱卵はメスだけが行い, 孵化日数は16~21日で, 雛は早成性である。飼育下のメスでは約40日齢で成熟し産卵可能となる。

### 巣:

くさむらの根元などで, 地面に浅いくぼみをつくり枯れ草などを敷いて巣とする。巣のサイズは外径10~11cm, 内径8cm, 深さ4cm, 高さ7cmほどである(清棲 1965)。

### 卵:

卵は長径30mm×短径22mm前後で, 淡黄灰色の地に暗褐色や黒褐色の大小の斑紋や斑点が散在する。一腹卵数は7~12個が多く, 18個の例もある(清棲 1965)。卵は食用としてよく知られており, 飼育下では産卵個体毎に一定の異なる模様をもつことがわかっている。飼育下での産卵は16~18時台が多く, 産卵直後にヒーヨヒヨヒヨヒヨという声を出す。年間約300個もの卵を産む。



写真5. ウズラ卵のさまざまなタイプ。

## 4. 食性と採食行動

おもにイネ科, タデ科, マメ科などの草本植物の種子などを好み, その他草本類の蒴果や漿果など, 動物質では昆

虫類(鞘翅目, 鱗翅目, 直翅目, 半翅目), クモなどを地上で採餌する(清棲 1965). 野生下での摂餌量や季節変化などはほとんど調べられていない.

## 5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

### ● 飼養と家禽化

ウズラを籠で飼う習慣は16世紀頃からあり, 江戸時代, とくに17世紀前半頃には, 武士階級の間でウズラの鳴き声を競う「鶉合せ」が流行し, 金銀・象牙などをちりばめた立派な鶉籠で飼育され優秀な個体が高額で取引されていた. 卵の利用を目的とした家禽化は明治中期に東京で初めて成功し, 戦前には全国で約200万羽が飼われるまで広がったが, 戦中の飼料不足等のために一時はほぼ消滅した. その後復興と共に愛知県で数つがいから再出発して現在の養鶉産業に至っている. 現在では全国14道県の農場で約700万羽が飼育され, その約70%が愛知県産, なかでも豊橋市を中心とした東三河地方が一大産地となっている. 我が国で編み出された養鶉技術は海外にも技術移転されているほか, 飼いやすく短期に世代を重ねられることから実験動物としても活用されている. 愛玩用としても根強い人気があり学校飼育動物としても扱われる.

家禽ウズラは野生個体より大型化の方向に選抜育種されており, 野生ウズラと家禽ウズラの間にはニワトリの品種間ほどの遺伝的分化が見られるとされる(木村・藤井 1989).

### ● 狩猟鳥として

さわめて美味しい鳥として, 騎馬猟や鷹狩りの時代から狩猟の対象とされ, 畏猟やツキ網猟によっても捕られた. 銃猟の対象としても, 足場がよいこと, 低空を直線的に飛ぶこと, 猟犬の能力を発揮できること, 朝は遅くから活動することなどから人気は高かった. 1892年には早くも「相対的保護鳥獣」として猟期が短縮され(1918年以降は他の狩猟鳥獣と同一), 1947年には1人1日の捕獲数制限が5羽とされる(その後1950~1971年は10羽)など狩猟規制がとられたが, 年間の捕獲数は1930年代の約60万羽をピークに急激に減少し続け, 現在(2006年度)では539羽にすぎない.

全国的な生息分布域の縮小などを受け, 2006年のレッドリストでは前版のDD(情報不足)からNT(準絶滅危惧)に移

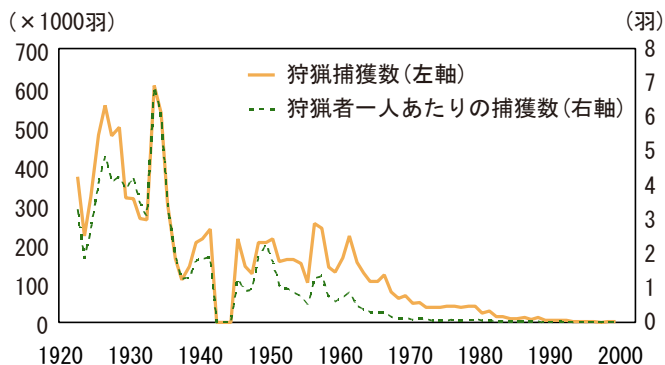


図. ウズラの狩猟捕獲数の推移.

行された. これを踏まえ, 2007年猟期から5年間, 環境大臣による全国一円の狩猟禁止措置がとられることとなった. 狩猟資源の保護の観点からは, 1970年代初頭から1990年代にかけて, 東京都や千葉県などにより年間約1千羽台の放鳥事業が実施された. また, 1993~2003年には, (社)大日本猟友会が全国12道県で放鳥事業を実施し, 最盛期には年間1万羽以上の放鳥実績を挙げた. しかし, 放鳥効果の検証は少数の例を除いては行われないうまま, 現在では事業としての放鳥は行われなくなっている(奥山 2004b).

本種に関しては, 飼育下での生物学的な研究が進展する一方で, 野生個体群に関する調査研究は近年ではほとんどなされていないのが現状である.

今後の保護管理においては, 捕獲禁止措置を受けたモニタリング手法を早急に確立するとともに, 生息環境の保全, 再生を進める必要がある. また, 飼育技術が発達した本種ならではの的確な放鳥, 再導入の手法もあわせて検討されるべきであろう.

## 6. 引用・参考文献

- 河原孝忠. 1978. 野生ウズラにおける体部形質の変異と行動. 鳥 27(4):105-112.
- 木村正雄・藤井貞雄. 1989. 野生ウズラと家禽ウズラ集団における遺伝的変異性. 日本家禽学会誌. 26(4):245-256.
- 清棲幸保. 1965. 日本鳥類大図鑑Ⅱ. 講談社, 東京.
- Madge, S. & McGowan, P. 2002. Pheasants, Partridges, & Grouse. Princeton University Press, New Jersey.
- 奥山正樹. 2004a. 狩猟鳥ウズラの現状. 山階鳥類学雑誌 35:189-202.
- 奥山正樹. 2004b. 栃木県におけるウズラの放鳥. Accipiter 10:1-14.
- 奥山正樹. 2005. 北海道におけるウズラの現状を探る. 北海道野鳥だより 139:4-7.
- 東京動物園協会. 1987. 世界の動物 分類と飼育 10-I キジ目. どうぶつ社, 東京.
- 内田清之助・清棲幸保. 1942. 鳥類標識法ニ依るウズラノ習性ニ関スル調査成績. 鳥獣調査報告10:72-127.
- 吉村九一. 1940. 実験狩猟術 II 鳥獣の攻方及び出猟知識. 照林堂書店, 東京.

## 執筆者

奥山正樹 環境省自然環境局

大学の卒論では海鳥(ウトウ)をテーマにしていますが, 環境省のレンジャーになった後, 本省に勤務していた約10年前に「地域振興券」で買ったつがいのウズラを飼い始めてから, すっかりこの鳥の魅力にハマってしまいました. 今まで我が家では6羽のメスが合計2,345個の卵を産んでくれました. 残念ながら野生のウズラにはほとんど会うことができませんが, 人との関わりや歴史的な面からも興味は尽きません. ウズラは人間が作り出した家禽だと思っている多くの人に, ウズラはれっきとした野鳥, しかも立派な渡り鳥だということを知ってもらいたいと思っています.

